

生物多様性 佐渡戦略 2030



「トキとの共生」という目標のもと、生きもの豊かな環境づくりに取り組んできた佐渡島で、生物多様性保全の取組をさらに加速させていくため、何ができるでしょうか。

生物多様性佐渡戦略 2030 は、2012 年に策定された戦略を補うかたちで、国内外の動向を踏まえ「今すべきこと」をコンパクトにまとめた短期戦略です。

佐渡戦略 2030 では、生物多様性保全の具体的なイメージを膨らませ、市民の声にもとづく施策を考えていくために、次の3つの工夫をしました。

- 1 自然と共生する暮らしのあり方を、「島民の語り」をもとに描く。
- 2 生きもの豊かな環境づくりを、「生きものの声」をもとに探る。
- 3 ワークショップなどで集めた意見を整理し、施策を考える。

この3つの工夫は、佐渡市ができることを考えるための材料としてだけでなく、市民や企業ができることを考える手がかりにもなります。

2030 年はもう目の前。
佐渡ならではの生物多様性保全を実現していきましょう。

「自然の恵みを実感する島」を再生する

私たちは、食料・水・住宅の材料など、日々の暮らしに必要なものを自然から得て生活しています。こうした「恵み」は「生態系サービス」と呼ばれ、私たちの生活の基盤となっています。

佐渡では、海・山・田畠に囲まれた豊かな自然環境の中で、米や魚介類、野菜などの食料が育まれると同時に、自然と深く関わる歴史・文化的な営みが形づくられてきました。

さらに離島であるため、外部からの供給に頼りにくいという特性があります。そのため、かつては地域の資源を活かして暮らす生活様式が自然と営まれてきました。今でも、地域で採れたものを分け合うなど、助け合いによって成り立つ生活の仕組みが残っています。

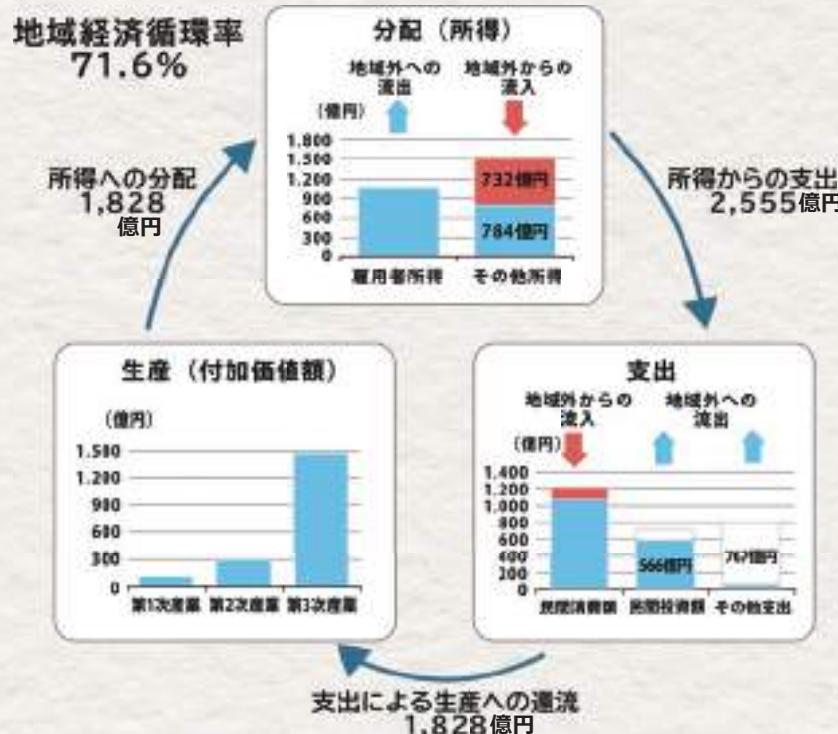
しかし、2018年現在で、地域内の資本の循環を示す地域経済循環率は約7割と県平均と比較して低くなっています。食料やエネルギーの多くを島外から輸入していることも一因です。自然の恵みを地域内で活用しきれず、逆に地域外への依存を高めることは佐渡の持続可能性を低下させることにつながります。

だからこそ、地域における自然の恵みを守り、地域の中で使う「サステナブルな生活様式」を再生することが我々の目標すべき方向ではないでしょうか。

現在の地域経済循環率は
71.6%と県平均(91.2%)
と比較して低くなっている

RESAS 地域循環分析結果(2018年)

(c) Ministry of the Environment. 2024
(c) Value Management Institute, Inc. 2024



生物多様性保全のトッププランナー

佐渡のこれまでの取組

本市は本州最大の離島であり、島固有の動植物も含め、自然豊かな生態系を有しています。かつて乱獲等により絶滅に瀕したトキが、国内で最後まで生息していたのが佐渡島です。

1999年に中国から2羽のトキの贈呈を受け、私たちは、トキを再び島内に定着させることを目指し、島をあげて生物多様性の保全に取り組んできました。

しかしながら、一度絶滅した生きものを人里に再び定着させることは、世界的にも例の少ない先駆的な取組であったため、試行錯誤をしながらの挑戦であり、その過程では、多くの島民にご協力いただきました。

「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度では、農家とともに、生物多様性を保全しながら、農業収益も向上させる、環境と経済の好循環の仕組みを創出しました。

また、「佐渡生きもの調査の日」を宣言し、島民が生物多様性の取組効果を調査し、実感する機会を作りました。

こうした取組が世界に認められ、石川県の能登とともに、国内で初めて世界農業遺産（GIAHS）に登録されました。

また、生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）でのサイドイベンント、生物多様性を育む農業国際会議（ICEBA）といつた

国際的な会議等を開催するなど、国内外に生物多様性保全の中心地として認知されています。



「トキと共生する佐渡の里山」
ブランドマーク

野生下で36年ぶりにトキのヒナが誕生した2012年、本市は「生物多様性佐渡戦略」を策定し、生物多様性を「知る」「守る」「使う」を基本に、人と生きものとの共生の基盤を強固にする取組を進めてきました。

私たちが生きものとの共生を目指す対象はトキだけではありません。稲作では、畦（あぜ）の除草に農薬を使わず、また昆虫への毒性が強いネオニコチノイド系殺虫剤を使わないなど、身近な生きものにも配慮した農業を展開しています。

2022年、本市は愛知目標に代わる昆明・モントリオール生物多様性枠組にコミットするため「ネイチャーポジティブ佐渡島宣言」を公表しました。

しかし、社会情勢として少子高齢化がますます進行し、さらには気候変動により暮らしや生きものとの共生のかたちにも変化が生じています。

そこで、島内外の情勢の変化に対応し、これからも本市が生物多様性保全のトッププランナーとして活動を発展させていくために、2030年をターゲットとした新たな「生物多様性佐渡戦略2030」を策定します。



►写真：生きもの調査の日の様子
（一社）佐渡生きもの語り研究所

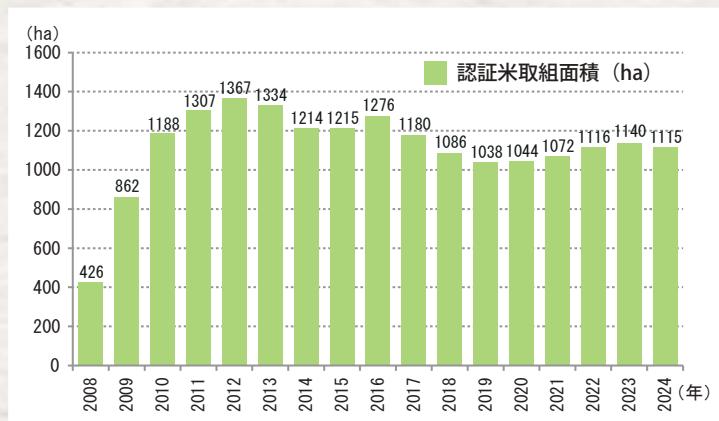


◀写真：
ネイチャーポジティブ佐渡島宣言

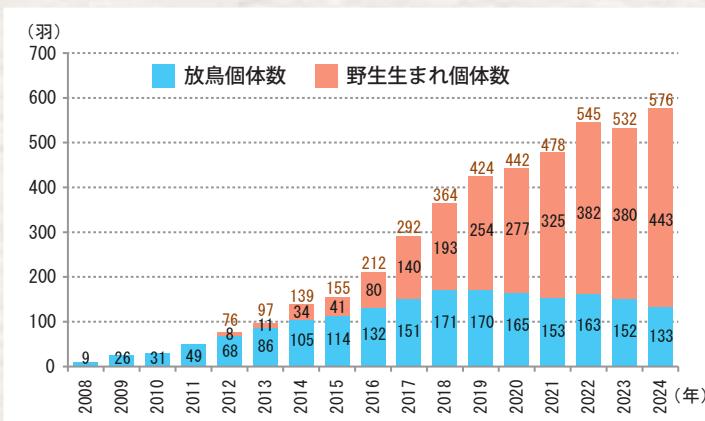
トキと共に歩む エコアーランド佐渡の取組年表



● 国の動き ● 佐渡市の動き ● トキ野生復帰に関連する動き



「朱鷺と暮らす郷」認証米の取組面積



野生下トキの生息数（推定値）



▲ 2011年世界農業遺産に認定



▲ トキの幼鳥（環境省提供）

佐渡を取り巻く環境の変化 「生物多様性の危機」

社会・環境の変化が佐渡の産業に及ぼす影響の一例

社会・環境の変化によって、暮らしの基盤である自然の恵みが今まさに失われつつあります。特に農業や漁業、林業などの第1次産業ではその影響が顕著に表れています。

耕作放棄リスクの増加

2050年までの
耕作放棄リスクの
予測



生態系が
変わる

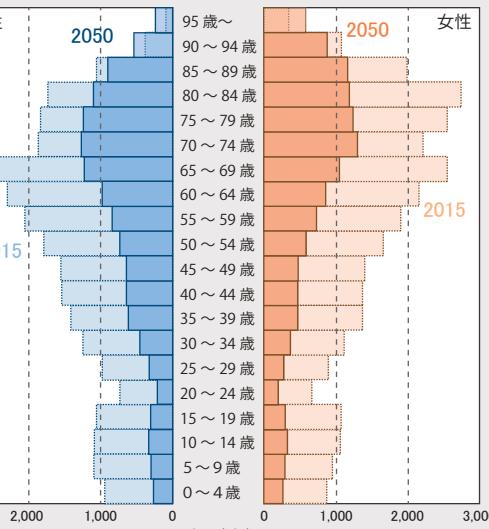
労働者の減少

2050年までの
耕作放棄リスク



出典:S21 プロジェクト・サブテーマ5(2) (<https://iam-b.jp/>)

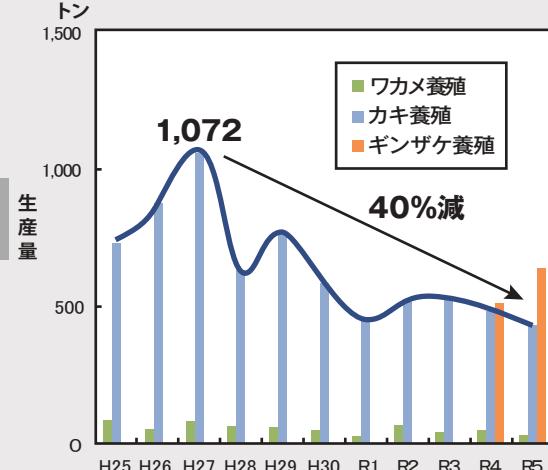
人口減少・少子高齢化



人口は2015年比で45%へ (57,255人 → 25,968人)

出典:佐渡の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所)

水産物の水揚げ量の減少

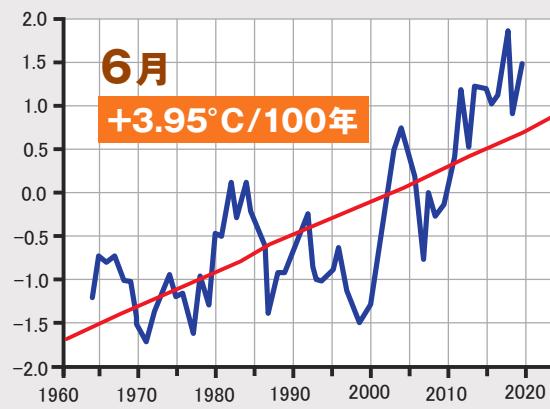


出典: 佐渡の水産概要 (佐渡地域振興局) 数値は農林水産統計年報の値

生きものが
減っていく

海洋・加茂湖の
環境の変化

佐渡達者沿岸域の 海面水温の平年差の推移



出典: 新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所海洋観測データ

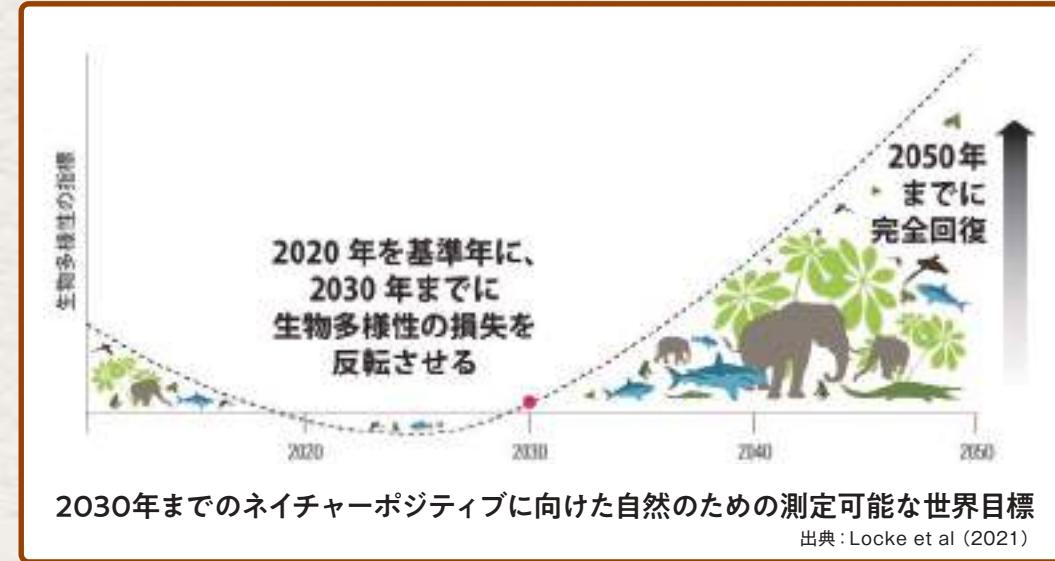
2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させる『ネイチャーポジティブ』の実現を目指します

ネイチャーポジティブ佐渡島宣言 (2022年10月)



ネイチャーポジティブの実現に向けて、次の活動を行います。

- ① 佐渡市では、保護地域および保護地域以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所(OECM)が既に30%を超えており、今後、さらに拡充されること
- ② 他地域の生物多様性を減少させる資源の移入・使用について、現状を把握し、削減に努めるとともに、自然環境や生物多様性の保全を発展的に展開することで、新たな産業創出等につなげること
- ③ トキとの共生を実現した地域として、ネイチャーポジティブに向けた知見・経験を他地域と共有しながら、生物多様性のパートナーシップを拡大すること



2022年、生物多様性に係る国際的な取り決めを行う国連生物多様性条約第15回国議(COP15)で「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。

2022年、生物多様性に係る国際的な取り決めを行う国連生物多様性条約第15回国議(COP15)で「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。

私たち、これまで、人間活動を行うなかで土地の改変など、環境への負荷をかけ続けてきました。その結果、世界において現在100万種もの動植物が絶滅に瀕しているといわれています。

また、その実現に向けた目標の一つに、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとすると、「30 by 30目標」が掲げられました。

我が国はこれに対応した

「生物多様性国家戦略2023-2030」を閣議決定し、ネイチャーポジティブの実現に向けた5つの基本戦略と状態・行動目標を設定しました。

こうした流れを受け、佐渡市は自治体としてはいち早く「ネイチャーポジティブ佐渡島宣言」をまとめ、生物多様性保全の取組を加速させています。

自然と共生する暮らしとは？

自然の美しさを
教えてくれた昆虫たち



私は小学一年生の夏に一匹のクワガタと出会ったことをきっかけに昆虫が大好きになりました。その日から夢中にいた。その日から夢中にいた。その日から夢中にいた。なった昆虫の世界は驚きと感動の連続で、止まらない好奇心と新しい発見で永遠と昆虫のことを考えていきました。毎日のように家の周りの田んぼや畑や草むらで出会う昆虫を捕獲しては飼育、家に帰ればボロボロになるまで図鑑を読んでいました。

昆虫とは、一言で表すならば「本当にすごい」。その種類の豊富さや多様性、人間を卓越した能力、そして何億年もの時を越えて生き続けてきた大先輩。彼らの存在は、自

然の中で絶対に欠かせない重要な役割を果たし、何よりも私たちに身近なところで生命の美しさを感じさせてくれるのです。

幼い頃のこの経験は、私にとってかけがえのない宝物です。昆虫や自然を通じて世界が広がりました。たくさんのことを学び、教えてもらったような気がします。豊かな経験を育んでくれた佐渡の自然。すぐそばに命の輝きを感じられるこの美しい環境が身近にあることに、私は心から感謝しています。

（中学生 上之山篤人）

無農薬栽培を通じて
地域課題を解決する

「生きものを大切にした」米作り

農薬を絶つた私たちの田んぼを見て、地元の方は「トンボの数がすげえな！」と笑顔を見せました。そこでは虫を追う子どもたちが農業体験に集い、その姿を親御さんが穏やかな眼差しで見守っています。

化学肥料の代わりに、厄介者とされる「竹害」の竹をチップ化して堆肥へ。微生物が生む発酵熱に企業研修で訪れた都会の参加者も目を見張り、**『その堆肥が田んぼの生命循環を加速させ、稻の窒素源となります。』**



『生き物を大切にすること』こそ、佐渡がめざす自然循環を軸にした暮らし・観光・交換される「竹害」の竹をチップ化して堆肥へ。微生物が生む発酵熱に企業研修で訪れた都会の参加者も目を見張り、**『その堆肥が田んぼの生命循環を加速させ、稻の窒素源となります。』**

（有機農家 本間涼）





トキ好き少年 「佐渡はいろいろな生きものを 感じができるフィールド」

僕は鳥が好きで、その中でもトキが一番好きです。トキについてもっと知りたいと思い勉強しています。

僕がトキを好きになったのは、祖父の影響です。祖父は鳥が好きで、毎日トキの観察をしていて、それを見て、自然とトキが好きになっていました。

佐渡には毎年たくさんの種類の渡り鳥が訪れています。渡り鳥が来たら祖父にバードウォッチングに連れていくつもらっています。そのおかげでトキだけでなくほかの鳥にも興味を持ちました。

僕の通う小学校では、毎年生き物調べをやっています。



永年見てきた 海藻の豊かな佐渡の海



佐渡の海で永年磯焼け対策や、藻場づくりの仕事に携わつてきました。海に潜ると、佐渡の自然環境の素晴らしさを体感できます。日本列島の中間の緯度に位置し、夏は水温が高かく、冬は低く、海の中は四季の変化に富んでいます。生きものが豊富で四季を通して生育する海藻も変わります。緑深い山々からは栄養豊富な清水が注ぎ、海藻を豊かに育みます。

ワカメ、ナガモ、コンブなどの海藻養殖が盛んですが、夏季の高水温の影響で、天然の海藻が減少しつつあります。ただし、地球温暖化が進む中、海のブルーカーボンに

家と学校の間にあるビオトープにトキがよくエサを探しに来ていて、そこへ行ってみなでいろいろな生きものを見つけます。ドジョウや昆虫のほかに、ザリガニやカワエビ、佐渡にしか住んでいないサドガエルなどを捕まえています。

佐渡に住む僕たちは家の周りの田んぼや草地にたくさん生き物がいることを当たり前に感じていますが、他の場所では生き物があまりいないと聞きました。普段僕らが普通だと思っているのが他では違うということにとても驚きました。

(小学生　土屋佳起)

生きものの声を聴く

佐渡島に生息する
多種多様な生きものたち。
彼らの声に耳を傾けることが、
生きもの豊かな環境づくりにつながります。

トキ

水田や草地で
魚や昆虫を
食べているよ。
耕作放棄地が広がって
食べものが減るのが
心配だな。



レモン・ミカン



南側の果物だけど、
佐渡沖の暖流の影響で
佐渡でも育つんだ。
最近は平均的に
暖かい日が多いから、
さらに過ごし
やすくなつたな。

ウシガエル

食用に島外から
連れてこられたのにさ、
誰も食べないから
どんどん増えちゃった。
水辺の動物たちを
食べちゃうから
嫌がられてる。



佐渡島にしか住んでいない固有種なんです。
一年間オタマジャクシで
過ごす仲間もいるので、
水辺が減っていくのが
心配。



昔は放牧のために雑草が刈り取られていたので、広がることができたの。今は地域の人があまり刈りを頑張って保全してくれてるの。



300歳を超える
仲間もいるよ。
曲がった枝や幹は
山の上で強風や雪に
耐えながら
生きてきた証。



ウサギが杉の木を
かじってしまうから、
その対策で島外から
連れてこられたの。
でも増え過ぎちゃって、
今は厄介者……



昔々、林業が拡大した時、
好物の木の皮を
お腹いっぱい食べていたら、
増えすぎちゃった。
島外から連れてこられた
テンに襲われて、
仲間はほとんど
いなくなっちゃったの。



畑や田んぼの
畦に穴を開けて
嫌われることもあ
るけど、世界中で
佐渡島にしか住んで
いないんだよ！



風雪に耐えながら、
杉よりも3倍以上の
時間をかけて
ゆっくり
育つの。
いい香りが
私の特徴。



アメリカザリガニ

雑食性で水草から
オタマジャクシ、
小魚などなんでも
食べちゃうから
「水田のギャング」
と呼ばれているんだ。
水田の畔にも
穴を開けるから
嫌われているんだ。



カキ

山からの
栄養豊富な水が
流れ込む海が好き。
近ごろは
海洋酸性化や
水温上昇
棲みにくい環境に。



アラメ

磯の
生きもののたちの
餌にもなるよ。
沿岸の岩礁は、
わたしたちのような
海藻には
大切な生息地。



クロサンショウウオ

森と田んぼを
行ったり来たりして
生活しているんだ。
森と田んぼが
コンクリートの
水路で分断されると
移動できなくな
なっちゃう。



水稻

最近は
気温が高い日が
多くなって、
粒が小さくなることが
増えてきたな。



コブダイ

生きものの豊かな
磯の環境がないと
生きていけなんだ。
オスは立派なコブが
特長なんだ。



ニホンイトヨ

水草や藻場が
少なくなると
産卵のための巣を作
れないよ。



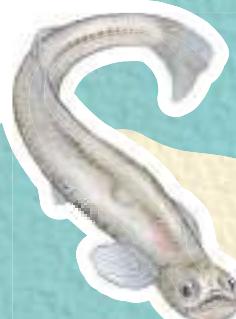
ゲンジホタル

カワニナなどの
餌がたくさん
生息する
里の水辺が好き。
でも洗剤が
流れてきたり、
高水温になると、
生きられないよ……



シロウオ

春になると
川をのぼるんだ。
自然海岸が減少したり、
海水温が上昇したり、
最近の海は
暮らしづらいなあ。



森里海は つながっている

山、田畠、まち、川、海など、
多くの生きものがさまざまな環境を
行き来して暮らしています。



参照したワークショップ(WS)データ:
 【佐渡のありたい未来(第2回)2050を考えるWS】2022.3.12 主催:佐渡市、【自然共生の未来を探求する連続WS】2022.6.30~8.19(計5回)共催:新潟大学自然共生科学センターコミュニティデザイン室、株式会社NTTデータ・佐渡市、【地域循環共生圏を学ぶ・考えるWS】2022.12.7, 2023.1.11(計2回)共催:佐渡市・佐渡島自然共生ラボ、新潟大学、【地域資源を未来へつなぐ地域資源活用シナリオWS】2023.11.28 共催:東京大学未来ビジョン研究センター・地球環境戦略研究機関(IGES)・新潟大学、【自然共生のまちづくりWS】2024.11.24 共催:佐渡島自然共生ラボ・新潟大学
 このインナーストマップは、環境研究総合推進費 戦略的研究開発課題(S-21)の研究の一環として作成しました。

施策展開 2030年実行計画

(市が率先して実施すること)

施策 1 森里海の自然を守り育てよう!

離島である本市の独自の生態系、在来固有の動植物を守るために、国定公園などの保護地域や、自然共生サイトといった保全エリアを指定し、適切な保全、維持管理をすることが効果的です。新たな指定区域の検討や、生態系の保全、維持管理に係る活動を支援します。

具体的な事業

- 離島である本市の独自の生態系、在来固有の動植物を守るために、「自然共生サイト」への登録促進と、登録を契機とした多様な主体との連携強化
- 佐渡弥彦米山国定公園内における希少種保護、外来種対策等の活動支援
- 市民・市民団体との協働による佐渡市レッドデータブックに基づく重要種の保全活動の具体化
- 環境保全団体等の森里海を守る活動に対する表彰制度の導入

施策 2 自然を生かして災害にも強い地域を!

自然を活用して社会課題を解決する考え方（Nature-based Solutions : NbS）が広がっています。佐渡の豊かな自然を防災・減災や、まちづくり・インフラ整備に活用することで、地域資源を活かした災害に強い地域が形成されます。例えば、水田の管理支援(畦畔管理等)は、洪水防止機能等を維持させる効果があります。

具体的な事業

- 農地や森林の保全を通じた多面的機能の維持や、機能増進を積極的に図る取組(田んぼダム、混交林・複層林化等)の推進
- 「天王川自然再生エリア」を、生物多様性保全と防災減災を両立した河川整備のモデル地区として発信

施策 3 カーボンニュートラルへの挑戦! 資源がめぐる循環型社会をつくろう!

本市は、2050年までにCO₂の排出量の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンアイランド」を宣言したほか、環境省が認定する「脱炭素先行地域」に認定されています。また、資源の循環を図る循環型社会を目指し取組を進めています。脱炭素や循環型社会に向けた取組は、生物多様性保全への相乗効果(シナジー)や代償(トレードオフ)をもたらすことがあります。

具体的な事業

- 生物多様性保全に貢献する気候変動対策の取組についての発信・啓発
- 農業におけるドローン活用による二酸化炭素排出量の削減と、河川・海洋生態系への負荷軽減
- 生物多様性保全や脱炭素対策、資源循環の取組の中で、佐渡島内外と連携した地域循環共生圏の構築の推進
- 地域循環共生圏の検討体制への金融機関の参画を推進



▲ 佐渡の国中平野



▲ 佐渡の棚田風景



▲ 佐渡市庁舎へのソーラーパネル設置

施策展開 2030年実行計画

（市が率先して実施すること）

施策4 自然のポテンシャルを生かした産業を！ 地域経済を育てよう！

本市では、トキをシンボルとした「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度や、「オーガニックビレッジ宣言」に基づく無農薬・無化学肥料栽培や有機農業の拡大といった環境保全型農業、その他、循環型林業、地産地消を推進しています。

島内の自然資源を「循環」させ、その過程で多くの主体が自然と「共生」することで、島全体で地域循環共生圏（ローカル SDGs）の実現を目指します。

- 具体的な事業
- 有機農業、環境保全型農業の推進（佐渡市みどりの食料システム戦略推進事業）
 - 学校・保育園給食への有機食品の積極利用、地域食材を使った食育推進
 - 佐渡産木材利用に対する補助（佐渡産材木造建築奨励事業）、伐採後の造林の徹底による循環型林業の推進
 - 森林環境税を活用した循環型林業への支援、林業に関わる課題解決の支援
 - 金融機関や民間事業者との連携による島内におけるESG投資の促進
 - ふるさと納税を活用した佐渡産品の発信、市場拡大の促進

施策5 共生・循環を学ぼう！ 参画しよう！ つながって課題を解決しよう！

豊かな自然に触れ、体験することで、生物多様性の重要性や素晴らしさを学ぶことができます。次世代を担う島の子ども達や、島外からの来訪者をはじめ、多様な人々が佐渡の魅力を体感できる機会を創出します。

サステナブルな自然共生のための取組は、市民、事業者、行政、教育機関、環境団体等の多様なアクターが連携しながら進めることで、より強固な体制で着実な事業推進が図られます。

- 具体的な事業
- 世界文化遺産「佐渡島の金山」をはじめ、世界農業遺産（GIAHS）や日本ジオパークに認定される佐渡の自然を活かしたグリーンツーリズムを発信・啓発
 - 環境学習・交流の拠点施設としてトキ交流会館などを整備・活用
 - 環境保全の取組について学び、協働の輪を広げるプラットフォームとして佐渡島自然共生ラボを推進
 - 佐渡独自の生態系を体感し、学ぶ場として市民の参画する生きもの調査を発展的に展開
 - 里地里山環境や農文化を維持、継承するため世界農業遺産「トキと共生する佐渡の里山」アクションプランを推進
 - 多様な人材が活躍する島づくりを目指し、二地域居住（or二拠点居住）等のモデルケースの周知や、二地域居住者と協力した島の文化継承の推進
 - トキ、森・里・川・海・大地、島をまるごと活用したサステナブル観光の推進と、観光を支援する人材育成



▲ 佐渡 Kids 生きもの調査隊の生きもの調査

佐渡にもつくるう自然共生サイト

新潟県内の事例



名称
じゅんさい池
場所・面積
新潟市、7.3ha
申請者
新潟市



名称
ふれあいファーム 三ヶ村
場所・面積
十日町市、3.4ha
申請者
(農組) ふれあいファーム 三ヶ村



名称
雪国植物園(西陵の森)
場所・面積
長岡市、35ha
申請者
(公社) 平成令終会



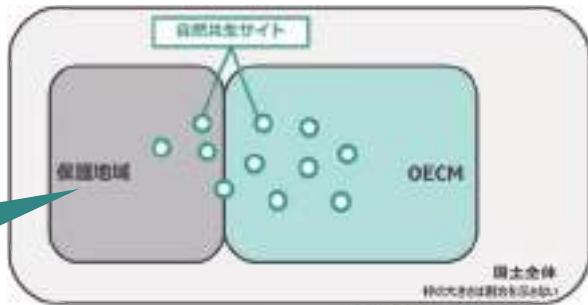
名称
朝日城の森
場所・面積
長岡市、3.2ha
申請者
(公財) こしじ水と緑の会

30 by 30の実現に向けて、国は「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を「自然共生サイト」として認定する取組を推進しています。また、自然共生サイトのうち、保護地域との重複を除いた区域は「OECM」として、国際データベースに登録されます。

2025年3月時点で、日本全国で自然共生サイトへの登録は328箇所となっています。自然共生サイトの候補地には、企業が所有する緑地や農地、環境教育のためのビオトープ、藻場を再生している干潟、社寺林、遊水地・調整池など、様々な場所が挙げられます。

保護地域・自然共生サイト・OECMのイメージ

- 自然公園
(自然公園法)
 - 自然環境保全地域
(自然環境保全法)
 - 鳥獣保護区
管理(鳥獣保護管理法)
 - 特別緑地保全地区
(都市緑地法)
 - 保護水面
(水産資源保護法)
- 等



3つの活動タイプ



市民、事業者等が一丸となつて取り組むこと

佐渡を使う



生物多様性の恵みを持続的に
享受する地域社会を構築する

自然エネルギーを活用した
電気を作り、利用しよう

五穀豊穣等を祈願する
伝統的なお祭りや
行事に参加しよう

生ごみのたい肥化など
資源を循環させ、
ごみの量を少なくしよう

佐渡産農林水産物を
進んで購入し、消費しよう

佐渡を 守る



生物多様性の損失を食い止め、
佐渡本来の生態系を回復する

地域で見かけなくなった
生きものや少なくなってきた
生きものについて知ろう

生きものが暮らしやすい
環境を守ったり、創ったりしよう

棚田や海を守る
環境活動に参加しよう

侵略的外来生物の
駆除・除去をしよう

佐渡を 知る



佐渡の生物多様性豊かな環境を
市民一人ひとりが理解する

ネイチャーガイドと一緒に
佐渡の自然を散策してみよう

身近に開催されている
生きもの観察会に参加してみよう

GIAHS（ジアス）、
ジオパークを学ぶ
勉強会に参加してみよう

自分が暮らす集落や地域の
自然や文化に目を向けてみよう

本戦略を推進する体制

2027年と2030年に多様な主体が参加して取組を評価します



佐渡市

多様な主体との連携で
生物多様性保全のための
政策・施策を展開

佐渡島
自然共生
ラボ

さまざまな主体が対話し共創する場

市民

NPO

企業

教育・
研究機関

▼ 多様な主体の参画による評価
次期戦略に向けたアイデア・プランの提案

生物多様性佐渡戦略2030

▲ 国内外の動向に基づく助言
科学的視点からの検討

トキと暮らす島
生物多様性佐渡戦略専門委員会





生物多様性佐渡戦略2030

2026年(令和8年) ●●月改定

佐渡市 農林水産部 農業政策課

〒952-1292 新潟県佐渡市千種232番地

tel. 0259-63-5117 (直通)

E-mail nousei@city.sado.niigata.jp